

(第1号様式)

### プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット®認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 周南市

住所：山口県周南市岐山通1丁目1番地

氏名：市長 藤井 律子 印

法人番号：4000020352152



(共同申請者) 山口県漁業協同組合 周南統括支店

住所：山口県周南市築港町11-17

氏名：支店長 藤村 和義 印

法人番号：4250005004158



(共同申請者) 大島干潟を育てる会

住所：山口県周南市大字大島910-1 (山口様方)

氏名：会長 永瀆 一臣 印



Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	202112JBCA00002
プロジェクト名称	大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクトin徳山下松港

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト概要	添付資料参照。
申請対象期間に実施した活動の概要	定期的な保全活動を月1~2回継続実施し、主な活動内容として、アサリを食害から守る被覆網のメンテナンス、アサリの間引き、アサリ種苗からの中間育成試験、カキの養殖試験、干潟清掃活動などを実施し、アマモ場やコアマモ場の維持・増大に努めた。また、保全活動に加え、小学生を対象とした環境学習会として、アサリやカキの育成勉強会や干潟の生き物観察会を4回実施し約300人が参加した。併せて、地元中学生、企業との交流会を開催して、保全活動の体験会やアサリやカキの試食会を実施し、大島干潟でのブルーカーボンに関する知識を深めることができた。
プロジェクト実施開始日	平成29年度～現在

方法論1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 ガラモ場</p> <p>【構成種】 アカモク</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年10月06日～2023年10月05日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>0.035 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>大島干潟（人工干潟）の潜堤において、空中ドローンにより面的な範囲を確認するとともに、徒歩により潜堤部のガラモ場を目視で観察し、構成種を判別し、潜堤から1m程度の幅で分布していることを確認した。空中ドローンによる観測と徒歩による目視観察を行った。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>JBクレジット申請添付資料_2023_10_23. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>2.7</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>0.094 (t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>90%</p> <p>(面積：0.035 (ha) × 評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：2.7 × 評価：70%)</p>

方法論1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】</p> <p>0 (t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】</p> <p>大島干潟造成前をベースラインとして設定する。干潟造成によって潜堤が設置されたことから、ベースラインをゼロとする。</p> <p>【資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	0.059 (t-CO2)

方法論2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海草</p> <p>【藻場】アマモ場</p> <p>【構成種】アマモ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年10月06日～2023年10月05日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>6.25 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>大島干潟（人工干潟）において、空中ドローンによる空撮及びGPS付魚探で岸沖ライン調査を行い、アマモ場の分布範囲を確認した。これらの画像により判読がなされていると判断した。GPS付魚探による観測と空中ドローンによる観測を行い、スポット的に水中カメラ等により被度の判別を行った。</p> <p>※面積に関する資料のp3～11を参照。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>JBクレジット申請添付資料_2023_10_23.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>4.9</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>30.625 (t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>95%</p> <p>(面積：0.035 (ha) × 評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：4.9 × 評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船（11kW / 15PS 程度）</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 3.00 (h)</p> <p>【出力】 11.00 (kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.016 (t-CO2)</p>

方法論2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<b>【CO2吸収量】</b> 0 (t-CO2) <b>【設定した根拠】</b> 大島干潟造成前をベースラインとして設定する。干潟造成前は、地元漁業者により現地においてアマモ、コアマモの生育繁茂は確認されていないため、ベースラインをゼロとする。 <b>【資料】</b> 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の吸収量	20.349 (t-CO2)

方法論3	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海草</p> <p>【藻場】アマモ場</p> <p>【構成種】コアマモ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年10月06日～2023年10月05日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>2.71 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>大島干潟（人工干潟）において、空中ドローンによりコアマモ場の分布範囲を確認した。干潟のコアマモについて、目視観察及びカメラの写真で被度を判別し、第1 工区及び第2工区ともにコアマモの被度5を確認。</p> <p>※面積に関する資料のp3～4、p12を参照。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>JBクレジット申請添付資料_2023_10_23. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>4.9</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>13.279 (t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>95%</p> <p>(面積：2.71 (ha) × 評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：4.9 × 評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし
	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】</p> <p>0 (t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】</p> <p>大島干潟造成前をベースラインとして設定する。干潟造成前は、地元漁業者により現地においてコアマモの生育繁茂は確認されていないため、ベースラインをゼロとする。</p> <p>【資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	8.830 (t-CO2)

方法論4	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海草</p> <p>【藻場】アマモ場</p> <p>【構成種】アマモ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年10月06日～2023年10月05日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>0.041 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>沖山地区において、空中ドローンによる空撮及びGPS付魚探で岸沿方向にライン調査を行い、アマモ場の分布範囲を確認した。スポット的に水中カメラ等により被度の判別を行った。 ※面積に関する資料のp17～21参照。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>JBクレジット申請添付資料_2023_10_23. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>4.9</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>0.2 (t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>95%</p> <p>(面積：0.041 (ha) × 評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：4.9 × 評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	大島干潟（人工干潟）で示した船舶の使用時間3時間に含まれる

方法論4	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<b>【CO2吸収量】</b> 0 (t-CO2) <b>【設定した根拠】</b> 沖山地区では、元々アマモが分布していたが、平成11～4年度ごろには消滅したとされている（環境庁 第4 回及び5回自然環境保全基礎調査）ことから、ベースラインはゼロとする。 ※面積に関する資料のp17～18を参照。 <b>【資料】</b> 添付ファイルなし
	⑨クレジット認証対象の吸収量	0.133 (t-CO2) ※排出量は大島干潟（人工干潟）の排出量に含まれているため、ここでは排出量は差し引いていない。



合計のクレジット認証対象の吸収量	29.3(t-CO2)
------------------	-------------